

第67期 株主通信

2020年4月1日 ▶ 2021年3月31日

サトー 佐藤食品工業株式会社

証券コード：2814

株主の皆様へ

平素は、格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。
ここに、当社第67期（2020年4月1日から2021年3月31日まで）の事業の概況をご報告申しあげます。

2021年6月

代表取締役社長 清水 邦雄

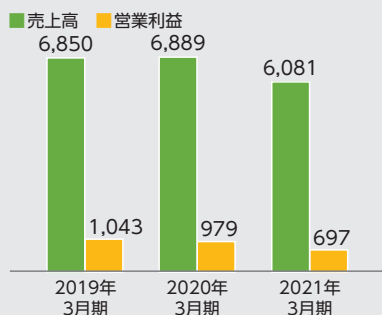
業績ハイライト

当社WEBサイトでは、決算短信や有価証券報告書など、詳細な財務情報を提供しております。

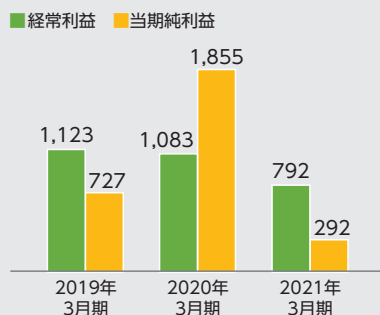
佐藤食品 IR

検索

売上高／営業利益（単位：百万円）

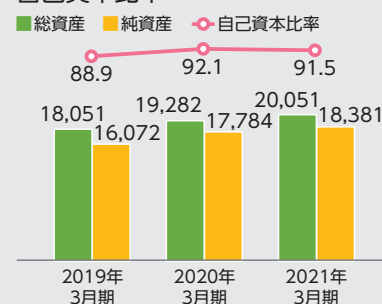


経常利益／当期純利益（単位：百万円）



総資産／純資産（単位：百万円）

自己資本比率（単位：%）



役員一覧（2021年6月29日現在）

代表取締役社長	清水 邦雄
常務取締役	上田 正博
取締役	鈴木 宗行
取締役相談役	長谷川 憲治
取締役（社外）	秦 博文
取締役（社外）	光田 博充
監査役	垣見 泰年
監査役（社外）	串田 正克
監査役（社外）	稲石 純二

会社概要（2021年3月31日現在）

本社	愛知県小牧市堀の内四丁目154番地
設立	1954年10月
資本金	36億7,227万5千円
従業員	178名
工場	本社工場 愛知県小牧市 第二工場 愛知県小牧市 第三工場 愛知県春日井市

株式の状況（2021年3月31日現在）

発行可能株式の総数	27,000,000株
発行済株式の総数	6,259,838株 (自己株式3,066,622株を除く)
株主数	1,149名

株主優待制度のご案内

対象	毎年3月31日現在の株主名簿に記載された500株以上の株式を保有される株主様
優待内容	500株～999株 1,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー） 1,000株以上 3,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー）
発送時期	毎年6月を予定しております

佐藤食品の茶エキスパウダー

当社の茶エキスパウダーは、水に溶かすだけで、誰でも簡単に本格的なお茶をつくることができます。冷水にもお湯にもサッと溶けるので、大変便利です。おいしさはもちろん、持ち運びも簡単で茶殻が出ない等、様々な特徴を有しております。是非この機会にご賞味ください。

【写真は 3,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー）】



単元未満株式の買増・買取制度について

口座のある証券会社へお申し出ください。特別口座を開設されている株主様は、口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社（TEL 0120-782-031）までお申し出ください。



サトーは、独自の「粉末化」技術で 天然食品の可能性を追求し、グローバルワンを目指します

製品分野のご紹介



茶エキス ● 売上高: 2,996百万円

緑茶、ほうじ茶、紅茶、烏龍茶、麦茶、玄米茶、抹茶、ジャスミン茶、ルイボス茶等

お茶本来の風味を余す所なく粉末化

用途

インスタント茶、給茶機・カップ式自動販売機、製菓、健康食品など



植物エキス ● 売上高: 624百万円

イチゴ、レモン、巨峰、りんご、バナナ、オレンジ、ブルーベリー、栗、ゆず、ネギ等

果実や野菜のフレッシュな風味をそのまま粉末化

用途

製菓、健康食品、粉末飲料など



天然調味料 ● 売上高: 2,318百万円

鰹節エキス、昆布エキス、椎茸エキス、酢、魚介エキス（鮭、エビ、真鯛）等

※粉末調味料と液体調味料を合算して表示しております。

天然素材の豊かな味と香りを閉じ込めました

用途

つゆ、たれ、スープ、ドレッシング、製菓、プレミックスなど



粉末酒 ● 売上高: 136百万円

赤ワイン、白ワイン、清酒、ブランデー、ラム、みりん等

世界主要17カ国で製法特許を取得！当社の名を
世界に広めたオンリーワン技術です

用途

製菓、プレミックス、スープなど

当期の概況

当事業年度における我が国経済は、2020年4月に新型コロナウイルス感染症（以下、「本感染症」といいます。）の感染拡大により、緊急事態宣言が発出されるなど社会経済活動が大幅に制限された結果、個人消費は低迷し、景気は急速に悪化しました。

5月の緊急事態宣言解除後は、段階的に社会経済活動が再開され、政策効果を伴って持ち直しの動きも見られましたが、11月以降に本感染症が再拡大し、2021年1月に2度目の緊急事態宣言が発出された他、変異株の感染拡大が懸念されるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。海外経済につきましても、各国で本感染症のワクチン接種が始まったものの、世界的な感染収束時期は見通せず、さらに長期化する米中通商問題など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当食品業界につきましては、本感染症の感染拡大に伴い、巣ごもり消費など新たな需要が創出された一方で、外出自粛や在宅勤務の推進などによる外食需要の減少、近年増加傾向にあったインバウンド需要の消失、テイクアウトやデリバリーサービスの利用定着など、消費者の購買行動や生活様式が変化、多様化したことによって厳しい経営環境となっております。

当社といたしましては、顧客、取引先及び従業員の安全確保を最優先に、マスク着用や手洗い消毒の徹底、Web会議等を活用した営業活動を推進し、出張を伴う営業活動や来客対応を抑制し、感染状況に応じた感染リスクの低減に努めるとともに、製造従事者への感染が広まった場合には、一定期間操業を停止するリスクがあるため、食事場所や休憩室等のエリア分けを行うことで、感染リスクの低減を図り、事業活動を継続してまいりました。

このような状況のもと、当社の当事業年度の売上実績は、本感染症の拡大に伴う外出自粛や在宅勤務の推進により、茶エキスを中心に低調に推移いたしました。

当事業年度における売上高は、茶エキスにつきましては、外出自粛などによる外食需要の減少や在宅勤務の推進などによりオフィス向け需要が減少した結果、緑茶エキス・ほうじ茶エキス等が減少したため、売上高は2,996百万円（対前年同期比13.8%減）となりました。

植物エキスにつきましては、前事業年度まで堅調に推移しておりました洋和菓子・デザート類市場において果実エキスの需要が減少したことにより、野菜エキスが増加したものの、果実エキス等が減少したため、売上高は624百万円（同17.2%減）となりました。

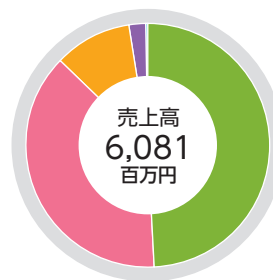
天然調味料につきましては、新たな生活様式の定着に伴う外食需要の減少や家庭内調理需要の増加などの影響を受け、粉末天然調味料は、粉末魚介・粉末酢等が増加したものの、粉末鰹節・粉末昆布等が減少したため、売上高は1,657百万円（同6.8%減）となり、液体天然調味料は、昆布エキスが増加したものの、鰹節エキス等が減少したため、売上高は660百万円（同7.2%減）となりました。

粉末酒につきましては、前事業年度まで堅調に推移しておりました製菓用途の需要が減少したことにより、ブランデータイプ等が増加したものの、ラムタイプ・清酒タイプ等が減少したため、売上高は136百万円（同15.0%減）となりました。

以上の結果、当事業年度における売上高は6,081百万円（同11.7%減）となりました。

損益面につきましては、営業活動の自粛による旅費交通費等の一般管理費は減少したものの、売上高の減少により営業利益は697百万円（同28.7%減）、経常利益は792百万円（同26.8%減）となりました。また、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、法人税等調整額367百万円（前事業年度末は△782百万円）を計上したため、当期純利益は292百万円（同84.2%減）となりました。

売上高構成比



■ 茶エキス	49.3%	2,996百万円
■ 天然調味料	38.1%	2,318百万円
■ 植物エキス	10.3%	624百万円
■ 粉末酒	2.2%	136百万円
■ その他	0.1%	6百万円

中長期の取り組み

特に下記の3点を重点課題として取り組んでおります。

① 安全・安心な製品の提供

品質保証プロセスにおけるITシステムを活用した業務改善。

② 生産性の向上及び合理化

原材料コスト変動リスク等に対処した、利益を生み出しやすい生産体制づくり。

③ 高付加価値製品の開発

製販一体となって、顧客ニーズの開拓、それにすばやく応えることができる体制づくり。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。